

# 平成28年度 伊那市立長谷中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
<p>学是「不撓不屈(ふとうふくつ)」</p> <p>心豊かにたくましく創造力溢れる生徒</p> <p>○思いやりの心を育む。</p> <p>○積極的に学習する態度を育て、基礎学力を向上させる。</p> <p>○健康を保持増進し、運動能力・体力を向上させる。</p> <p>○自分で考え判断し、行動できる力をつける。</p>	<p>“心をつなぐ学校”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ喜びが体得できる手応えのある学習 ～個に寄り添う学習～</li> <li>・思いやりの気持ちを実行に移せる生徒 ～道徳、体験学習の充実～</li> <li>・地域、保護者に信頼される開かれた学校 ～PTA・地域との連携～</li> </ul> <p><b>今年度の重点目標</b></p> <p>(1) 地域に根ざした学習を通して「ふるさと長谷」に誇りと愛着を持つ生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙丈ヶ岳登山 ・暮らしの中の食、農業体験の推進 ・地域教材の開発</li> <li>・入野谷学習(自然探索・伝統文化・食文化)</li> <li>・南アルプス太鼓や音楽部の地域における演奏</li> <li>・信州型コミュニティースクールの推進 『長谷の緑側』の実施</li> </ul> <p>(2) 人とのつながりを大切にし、「思いやりの心」を育む生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人との交流の体験を通して学ぶ ・地域全戸への花の苗の配布</li> <li>・サンハート美和へのふれあい訪問 ・伊那養護学校との交流</li> <li>・東部中との交流 ・保、小、中の連携による防災訓練 ・職場体験学習</li> <li>・小学校、保育園との交流(訪問活動、給食交流等)</li> </ul> <p>(3) 小規模のよさを生かした学習を通して、「確かな学力」を身につける生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に学習する態度を育て、基礎学力を向上させる</li> <li>・ペア学習、グループ学習、全校朝学習、全校朝読書</li> <li>・一人一公開 ・家庭学習の充実</li> <li>・ICTの活用 ・一人一人が主役の生徒会活動</li> <li>・体力づくり ・気力、体力を高め絆を深める部活動</li> </ul>

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○生徒の「学校へ行くのが楽しい」という評価項目の到達度が、87.5%と、昨年度に引き続き高い数値を示した。また、保護者の「お子さんは学校生活に満足している」という評価項目の到達度は、86.67%で高い数値となっている。概ね生徒、保護者ともに学校生活への満足度は高い。		
○一人一人の個性に即したきめ細かく指導ができているかという点では、学力面・生徒指導面ともに生徒と保護者ともに80%以上がそう評価しており昨年度より数値が上昇している。生徒一人一人に目が届き、全職員が個々に関わりながら教育活動ができる本校の良さを今後も十分活かして、今後も心身の成長と学力向上を課題としていく。		
(1) 「入野谷学習」では、地域の方を講師として学習を深め、文化祭や地域行事の中で多くの方に学習の成果を伝えることができた。また農業体験学習で給食の食材を育てる学習に力を入れた。南アルプス太鼓や音楽部のコンサート活動など地域とつながる学習に積極的に取り組んだ。毎月1回程度『長谷の緑側』を実施し、地区社協・保小連携による信州型CSを推進することができた。	A	○「農業体験」を全校の活動とし「暮らしの中の食」を学ぶことでは自分の課題を見つけて追究できる場を積極的に設ける。信州型CSで地域からの支えを受けたり地域の活性化に貢献したりすることで「ふるさと長谷」への誇りと愛着をさらに高めたい。『長谷の緑側』を定例化し、地域とのつながりを深める。
(2) 全校生徒や音楽部が「サンハート美和」へのふれあい訪問を実施し、お年寄りとの交流ができた。また、伊那養護学校の生徒とも交流ができ、共に生徒の「思いやりの心」を育むことができた。花壇作り、地区内全戸パンジー配付の活動にも進んで取り組むことができ、こうした豊かな心を育てる学習に対して、保護者の評価も96.67%と高評価をいただいている。	A	○福祉活動や花作りに関しては、活動内容を見返しながらも引き続き大事な情操教育として位置づけて取り組んでいく。これらの活動や職場体験、保育園小学校と連携した防災訓練など、地域の方やお年寄りまた園児や小学生とのふれあいをさらに充実させ、「人とのつながりを大切にできる生徒の育成」を目指していく。
(3) 「先生はわかるまで教えてくれる」と生徒の92.36%が感じている。「基礎学力が定着している」という成果を自己評価している生徒は72.22%で、昨年度(66.94%)より上昇した。今年度より週1回、全校生徒が図書館に集まり全校朝読書を実施し、放課後学習の継続、さらに家庭学習の充実のため「自学ノート」への取り組みを行った。「自分の健康管理ができた」と評価している生徒は81.25%と高い数値を示している。	B	○毎週水曜日「相談自学」の時間を設定、学力に不安をもっている生徒に対し個別指導を行った。また冬期間は、「三峰の時間」に学習支援を行ったり、放課後学習を行ったりした。
	a	○「自学ノート」を通して、家庭学習がより充実するように指導を重ねていく。
	b	○自ら課題が持てる授業、わかる授業、学び合える授業等、職員全員が授業改善に努める。ICTの活用やアクティブラーニングの研究に取り組んでいく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○楽しく成就感のある教育課程の展開	○個々の生徒につける力・伸ばす力を明確にした計画的な教育課程が展開できたか。
		○主体的に取り組める教育活動の展開	○関心・意欲・態度の向上を目指しながら、特色ある・魅力ある教育活動が展開できたか。
	学習指導	○「分かる授業」「魅力ある授業」の実践	○情報交換の場・考える場を授業に位置づけ、共に学び合う場や喜びを大切に、「分かった」「できた」という成就感を持って終える授業ができたか。
		○生徒の学力が定着し、発展する個に即した授業の実践	○個々の課題を的確に把握し、主眼を明確にしながら学習問題を位置づけ、個々の生徒の力を伸ばす授業ができたか。
		○指導の改善における評価の実践	○指導の改善に生きる評価を的確に行うことができたか。
	部活動	○主体的に取り組める部活動の実践	○個々の目標を明確にしながら、意欲的に部活動に取り組める指導ができたか。
○生徒・保護者・他団体と連携を円滑にしながら、活動を発展させることができたか。		○生徒・保護者・他団体と連携を円滑にしながら、活動を発展させることができたか。	
生徒指導	○生徒理解に基づいた個々の生徒への指導	○生徒の心情を大切に、背景を考えながら指導すると共に、報告・連絡・相談を密にしながら生徒指導ができたか。	
	○教育活動との連携や人権感覚に基づいた適応指導	○「道徳授業」や「福祉活動」の実践及び人権感覚の育成ができたか。	
学校運営	安全	○安全の保持	○学校の施設・設備は、安全で学びやすい環境に整えられているか。
		○安全の確保	○安全指導がきめ細くなされ、情報伝達も素早く行き渡り、安全の確保がなされたか。
	地域との連携	○通信や授業参観等を通しての理解	○学校だよりや学年だよりHP等により、学校の様子や現況を積極的に知らせたか。
		○学校から地域への発信と協力・連携関係の構築	○授業参観・行事参観等を通して、学習指導に関して保護者に理解してもらえたか。
研修	○学校理解に向けて積極的な情報伝達を行い、地域の方々との協力により、豊かな教育活動の追究ができたか。	○学校理解に向けて積極的な情報伝達を行い、地域の方々との協力により、豊かな教育活動の追究ができたか。	
	○同僚性に基づいた研究・研修の実現	○研修会・研究会・各会議等が教育実践に効果的に作用しているか。	
		○職員間の意志の疎通が図られ、信頼関係に基づいた教育活動ができたか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○学校行事への満足度は、昨年度より下がってはいるが、生徒が75.69%で保護者が88.33%である。少人数ではあるが個々に責任の重さは感じているが、その分だけ生徒一人一人が自己の力を出しきりやり遂げたという達成感がある。	A	○特定の生徒だけでなく、どの生徒も新たな経験や責任ある立場を体験できるように、具体目標を持たせて活動できるように支援する。生徒数減少による教育課程の見直しを実施し、活動だけが先行せず、職員がねらいを明確に共有できる中で指導していく。
○生徒会、学校行事等への生徒の主体的な参加の到達度は、93.75%と非常に高く積極的な活動がなされている様子が分かる。生徒の学校の活動全般への満足度は高い。	A	○生徒が主体的に活動に取り組めるよう目標を具体的に設定させる。成就感味わわせるように、目標が達成できるように支援する。今年度以上に、保護者に生徒個々の努力や成果を多く伝え、賞賛し認め合うことで次への意欲につなげていく。
○「授業が楽しくわかりやすい」と感じる生徒は81.25%で、昨年度より若干上回った。教師側の自己評価では「成就感ある授業の実現」が80.56%であった。今後も「魅力ある授業づくり」「わかる授業」の実現を目指して取り組んでいく。	B	○「授業がもっとよくなる3観点」の見届けが確実にできるようにし、学習内容の定着を図る。一人一公開授業を継続し、つける力を明確にした研究を進めたい。
○基礎学力の定着に関しては生徒が72.22%、保護者が64.17%と、昨年度より両者ともにわずかだが上昇している。今後も、基礎学力の定着に向けた授業改善を行っていく必要がある。	B	○評価のあり方についても研究を深め、次の指導に役立てられるものにしていきたい。
○県や国の標準テスト等からは本校生徒の学力は概ね十分な力を示している「指導に活きる評価ができた」が61.11%と低い。	B	○授業の3観点に照らしたメリハリのある授業や個々の力を伸ばすために、個別指導の充実、ドリル学習の工夫・放課後学習の活用をする。家庭学習を充実するためのICT活用、「自学ノート」をさらに充実させる。
○音楽部は地域で積極的にコンサート活動を実施しテニス部も少人数ではあるが意欲的に活動した。生徒の満足度は89.42%、保護者は92.24%、職員は60.71%である。生徒と保護者からは、ほぼ「満足度の高い部活動」と評価されている。	A	○授業を振り返って生徒に感想を聞く、またアンケートをとるなどして教師の授業評価を継続して進めたい。また個々の生徒の学習の伸びや課題をつかむための評価のあり方を追究して、授業改善へつなげたい。
○「教師が親身になって相談のつてくれる」では、生徒76.39%、保護者85%となっている。全学年でQ-Uを実施し、相談の時間等を活用するなど生徒が相談できる時間の確保や雰囲気作りができた。担任だけでなく、生徒指導は複数職員が連携して対応することができた。	A	○テニスと音楽という2つの部活動を今後も継続していく。練習時間は限られるが目標を持たせ、効率の良い練習ができるように指導する。音楽部が地域へ出てコンサートを実施しやすいように人的、物的環境を整える。
○教師の「人権感覚に配慮した教育活動ができた」は93.75%であり、いじめや体罰調査を実施して保護者と連携した対応に努めることができた。	A	○生徒への声かけを増やし、相談の時間を確保することで相談できる機会を増やす。
○学校環境への満足度は生徒84.72%、保護者86.36%である。今年度も危険箇所を優先して修理したり、ICT活用の授業のための学習環境整備を進めたりすることができた。	A	○小中の連携を図ることやQ-Uの実施等で、生徒理解をより充実させる。
○本年度も避難訓練や煙体験、不審者対応訓練や小学校・保育園と連携して引渡訓練を行うなど危機意識の向上や訓練の充実を図った。伊那市安心安全メールで注意喚起の発信も行った。生徒の満足度は88.19%、保護者95.83%と高い。	A	○職員間で共通理解した上で、全職員が指導にあたる様に職員会議等で情報を共有する。
○学年通信や保健便り・給食便りを定期的に発行しHPの更新、新聞等での報道も活用した。学校便りは保護者に月1回、地区内全戸に月1回配付。保護者の満足度93.33%	A	○教科指導や全教育活動の中での人権教育を引き続き実践する。中でも自らの生き方を考える道徳教育に一層力を入れ、教材研究や教材選定等学年会で検討する。
○「学校は行きやすい場所である」は保護者81.67%である。5回の参観日、PTA活動への参加率も高かった。	A	○HPやお便りや人権に対する学校の取組を保護者に伝え、信頼関係を強くしていく。
○地域の方々が入野谷学習・サンハート美和との交流・パンジー配付・南アルプス太鼓の活動、音楽部のコンサート等によく関わってくださっている。	A	○毎月の「安全点検」を確実に実施し、改善点があれば迅速に対応する。生徒の活用・授業の有効性から備品を見直し、学習環境を整える。
○小中での連携を本年度は重点的に行ってきた。小中PTAが連携して行った「長谷クリーン作戦」「ノーテレビノーゲームデー」「給食試食会」事業等、内容が充実してきている。	A	○「はせっこ見守り隊」「子どもを守る安心の家」「安全マップ」の更新を長谷総合支所・公民館・長谷小学校と連携して行う。
○今年度は保健体育科の全校研究授業や、一人一公開を行いお互いの授業改善に向けた研修を深めた。	A	○学校ホームページの積極的な更新で今後も早く広い範囲に情報を提供していく。
○事例を扱う非違行為防止研修や、資質向上研修会(小中連携も含む)を年間通して継続して行った。	A	○学年通信・学校便り・保健便り・給食便り、また学級懇談会を通して生徒の姿を保護者に伝えていく。また、担任と気軽に相談できる雰囲気や機会を設ける。
○職員会議、学校運営委員会、学年会、職員朝会等を通して、教師間の連携を常に図った。また、緊急の対応については職員連絡会を以て即時に対応するようにしている。	A	○プレスリリースを行い、長谷中学校の取り組みを発信する機会とする。
	a	○くろゆり祭、入野谷学習の発表等については、地域に積極的に発信し周知していく。
	a	○入野谷学習(総合的な学習)では、信州型CSを推進する中で引き続き地域の方を講師に願って連携を深めていく。
	a	○PTA交流では今年度の反省や保護者の意向を聞きながら、さらに小学校との連携も深め、親子で共に活動できる場を検討していく。
	a	○今年度のように職員の求める職員研修や研究を考える。授業力向上に向けた職員間の情報交換や連携活動を重視する。IpadなどICT活用についての研修、東部中との合同教科会などを計画したい。また、小中職員が連携した研修・研究を今後さらに目指したい。
	a	○生徒指導委員会をはじめ、組織的係活動の活用を図り、いじめ・不登校等についてはチームでの支援を軸にさらに改善を図っていく。

